

1 題材 詩と音楽との関わりを味わおう ～スキーの歌～

2 指導の立場

＜子どもの実態から＞

子どもは、「夢の世界を」の教材において、歌詞の内容から曲想の変化を感じ取り、歌唱表現を工夫する学習をしている。そこでは、曲の前半は過去の懐かしい思い出を振り返る歌詞を優しく語りかけるように歌い、後半は未来に向かって進んでいこうという思いが伝わる歌詞をのびのびと歌い、歌詞に込められた思いをもとに強弱に着目しながら表現を工夫した。このような子どもが、詩と音楽との関わりを味わう学習においても、歌詞の内容から情景を思い浮かべ、そのイメージを、音楽を形づくっている要素と関連付けながら、強弱や速度などを工夫する学習に取り組むことで、豊かな感性が培われていくだろう。

そこで、題材を構想するにあたっては、次のような教材を設定する。

＜教材について＞

本教材「スキーの歌」は、風を切って、勢いよく白銀の雪山をスキーで滑る様子を表した歌詞が特徴的であり、旋律の動きや軽快なリズム、速度、強弱などに着目しながら思いをもって歌うことができる教材となっている。ここでは、斜面を下るスピード感や滑り降りる喜びを歌詞から想像し、曲にふさわしい表現を工夫することが大切である。そこで、歌詞や情景から音楽の楽しさや曲の特徴を見出し、グループごとに着目したい音楽を形づくっている要素を決めて表現を工夫する活動を設定する。子どもは、演奏を聴き合ったり、気付きを伝え合ったりすることで、「スキーの歌」にふさわしい多様な表現方法を見付けていくだろう。

そのような学びを実現するために、指導にあたっては、次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

- 題材の初めに、「スキーの歌」の曲想や歌詞から、情景に合う写真やイラストを見付けさせる。そうすることで、どのような情景なのかイメージを共有して歌い方を考えることができるようにする。
- 「スキーの歌」の音楽の特徴をいくつか出させる。そうすることで、次の時間に様々な音楽を形づくっている要素から1つ選ぶことができるようにする。
- 演奏を聴き合い、気付きを伝え合う場を設けることで、自分たちの工夫が相手に伝わっているか、確かめることができるようにする。
- 題材の終わりに、様々な音楽を形づくっている要素について工夫することで、楽しく歌唱することができたかを振り返らせる。そうすることで、表現を工夫したら、音楽の雰囲気が変わり、自分の思いや意図をもって活動することの大切さに気付くことができるようにする。

3 目標

- (1) 「スキーの歌」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付ける。【知識及び技能】

- (2) 「スキーの歌」の音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 「スキーの歌」の曲想や歌詞の内容に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。 【学びに向かう力、人間性等】

4 指導計画（総時数 3 時間）

次	学習活動・内容	題材の指導上の留意点
一 ①	○ 「スキーの歌」の情景を思い浮かべる。 ・歌詞から思い浮かぶ情景 ・この曲が作られたときのスキーの魅力 ・曲に対するイメージの共有 ・「スキーの歌」の譜読み	○ 「スキーの歌」の曲想や歌詞から、情景に合う写真やイラストを見付けさせる。そうすることで、どのような情景なのか、イメージを共有して歌い方を考えることができるようにする。
二 ② 本時 2 / 2	○ 「スキーの歌」の曲の特徴について話し合う。 ・曲の特徴について ● 「スキーの歌」の情景にふさわしい表現を工夫する。 ・旋律の動き ・リズムの特徴 ・ふさわしい速度 ・強弱の工夫	○ 「スキーの歌」の音楽の特徴をいくつか出させる。そうすることで、次の時間にその中から音楽を形づくっている要素から1つ選ぶことができるようにする。 ● どの音楽を形づくっている要素に着目して表現を工夫するかをグループで決めさせる。そうすることで、練習の際に視点をもって工夫することができるようにする。

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知「スキーの歌」の曲想とリズムや速度などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 技思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。	思「スキーの歌」の音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	態「スキーの歌」の曲想や歌詞の内容に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

6 本時案 ー第二次・2時分ー

(1) 主眼 「スキーの歌」の歌詞や情景を思い浮かべ、どの音楽を形づくっている要素に着目するかをグループで話し合う活動を通して、曲にふさわしい表現をすることができる。

(2) 準備 教科書、ワークシート、メトロノーム

(3) 学習の展開

学習活動・内容	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
1 「スキーの歌」にふさわしい表現方法について話し合う ・旋律の動き ・リズムの特徴 ・ふさわしい速度 ・強弱の工夫	ア 音が上がったたり下がったりするところは、斜面を勢いよく下っていく感じがするから速いテンポの方がよいのではないかな イ 付点がついた音符は、楽しく滑っている感じがするから、勢いをつけたいね	・「スキーの歌」の曲想と歌詞とを関連付けながら、曲にふさわしい表現について話し合わせる。そうすることで、「スキーの歌」の躍動感や楽しさを相手に伝えることができるようにする。	5
2 「スキーの歌」にふさわしい表現をためす ・旋律の動き ・リズムの特徴 ・ふさわしい速度 ・強弱の工夫	ア メロディーが上がるところは勢いをつけたいな イ 弾んだ感じを出したいから付点のリズムを強調したいな ウ 速く歌うと、楽しく滑っている感じが出せるよ エ スキーの様子から速いテンポで歌いたいな オ 3段目は少し落ち着いた感じでやわらかく優しい感じで歌いたいな	・どの音楽を形づくっている要素に着目して表現を工夫するかをグループで決めさせることで、練習の際に視点をもって工夫できるようにする。 ・演奏を聴き合い、気付きを伝え合う場を設けることで、自分たちの工夫が相手に伝わっているか、確かめることができるようにする。	35
3 今回の学習で着目した音楽を形づくっている要素について振り返る ・歌詞や情景と音楽を形づくっている要素との関わり	ア 付点8分音符を意識して歌うと、一気にスキーで滑り降りる感じを表現できたよ イ 歌う速度が変わると、スキーの滑る速さも変わるから、速度も大切だと思ったよ ウ 他の曲を歌うときも、情景にふさわしい表現ができるように音楽を形づくっている要素に着目して表現したいな	・様々な音楽を形づくっている要素について工夫することで、楽しく歌唱することができたかを振り返らせる。そうすることで、表現を工夫したら、音楽の雰囲気が変わり、自分の思いや意図をもって活動することの大切さに気付くことができるようにする。	45

(4) 評価規準と方法

「スキーの歌」の歌詞や情景を思い浮かべ、どの音楽を形づくっている要素に着目するかをグループで話し合う活動を通して、曲にふさわしい表現をすることができたか、発表やワークシートからみとる。

<メモ>